

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	10	05	01	104360	芸術文化推進事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興		
	施策	01	芸術文化活動の推進				
目的	芸術に親しむ機会を提供する。						
対象	市民						
意図	市民が身近な場所で気軽に芸術文化にふれ親しむことができるように、機会を提供する。						
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ○小学生のためのアートセミナー事業 84千円 ○所蔵美術品貸出事業 ゼロ予算 ○小中学生美術展事業等 208千円 ○花巻市芸術協会事業補助金 2,416千円 ○花巻市民芸術祭実行委員会負担金 3,888千円 ○花巻市芸術文化大会等出場補助金 0千円（リモート開催により支出なし） ○花巻市芸術祭巡回美術展 0千円（コロナウイルス感染症感染拡大により中止） 						
市民参加の有無							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03	
1	アートセミナー開催回数	回	計画	2.00	2.00		
			実績	2.00	1.00		
2	市民芸術祭開催事業数	件	計画	31.00	32.00		
			実績	31.00	7.00		
3			計画				
			実績				
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03	
1	アートセミナー参加者数	人	目標	120.00	120.00		
			実績	133.00	55.00		
2	市民芸術祭参加者数及び入場者数	人	目標	12,000.00	14,200.00		
			実績	14,419.00	4,233.00		
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
<p>コロナウイルスの影響により、事業の中止や規模の縮小等、例年に比べて開催事業数や参加者数は減少した。実施できた事業においては、芸術文化活動の導入である児童期においては興味を持っている児童は多く、小学生アートセミナーは参加者アンケートでもその満足度は高かった。芸術文化活動を行う団体で組織され自主的に実施される市民芸術祭は、その参加状況により市民の芸術文化活動の度合いが推測できる。芸術団体の加盟者のみならず、個人での出品や市内高校の文化部の出品があり、幅広い年代にわたる多くの参加者による芸術祭が実施された。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	子どもたちをはじめとする、市民がゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現するためには、行政の関わりは重要である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	身近な場所で気軽に芸術文化にふれることが可能となる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	関係文化団体と連携を図り実施している。また、可能な限り最小限の経費で対応しており、削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	全市民を対象とした事業であるので公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
総合評価	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
	今年度の振り返り	<p>コロナウイルスの影響はあったものの、市民の芸術文化活動の充実を図るため、市民芸術祭などによる文化活動の発表の場の提供や、自主的な芸術文化団体の活動へ支援を実施した。芸術団体の加盟者のみならず、個人での出品や市内高校の文化部の出品があり、幅広い年代にわたる多くの参加者による芸術祭が実施された。</p>
次年度に向けて	<p>芸術文化活動の推進は、すべての市民がゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していく上で引き続き実施が必要である。</p>	

令和2年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	04	104480	芸術文化推進事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	01	芸術文化活動の推進			
目的	市民に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供するため主催事業を実施する。					
対象	市民					
意図	市民が芸術文化活動へ積極的に参加し、生活の中で芸術文化に接する機会を増やす					
事業概要	文化会館自主事業 1,115千円 新型コロナウイルス感染拡大防止のため全公演を中止とした 公演中止の周知及び公演準備のために発生した経費等を支出 中止した事業 ・一般鑑賞事業 4事業5公演 ・団体鑑賞事業 4事業16公演					
市民参画の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	一般鑑賞事業公演回数	回	計画	5.00	5.00	
			実績	5.00	0.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	文化会館一般鑑賞事業に満足・ほぼ満足と回答した市民の割合	%	目標	90.00	90.00	
			実績	77.60		
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から自主事業公演をすべて中止としたため満足度を指標の数値を算出するためのアンケートが実施できなかった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市内には、民間施設での開催事業が少なく、芸術文化振興の拠点施設である文化会館において、市民に芸術鑑賞の機会を提供する必要がある。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	市民のニーズに沿った魅力ある事業を開催して、新たな鑑賞者の掘り起こしを行い、市民にとってより満足の度合いが高まることが期待できる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	充実した事業を提供するうえで、公演委託料や周知にかかる経費など事業費の削減の余地がない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	市内全域への事業の周知や、事業鑑賞の機会を提供するため、入場料金並びに鑑賞料金として応分の負担をいただいている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業が実施できなかったが、継続して多くの市民に芸術鑑賞の機会を提供するため、ニーズに応じた事業の展開を図っていく。
	次年度に向けて	他館との連携など実施方法の工夫により、自主事業公演の拡充を図っていく。

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	04	104490	文化会館施設改修事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	01	芸術文化活動の推進			
目的	利用者の安全確保と、建物の長寿命化を図るため、文化会館施設改修を実施する。					
対象	市民					
意図	市民が芸術文化活動へ積極的に参加し、生活の中で芸術文化に接する機会を増やす					
事業概要	文化会館施設改修事業 121,825千円 大ホール舞台照明設備の更新（工期：令和2年11月27日～令和3年9月30日） ・大ホール舞台照明設備改修工事設計業務 3,850千円 ・大ホール舞台照明設備改修工事 117,975千円 （工事費235,950千円のうち50%を前払金としてR2支出、残金はR3へ繰り越し） ・大ホール舞台照明設備改修工事監理業務（委託料3,520千円は全額R3へ繰り越し）					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	整備事業実施件数	件	計画	3.00	1.00	
			実績	3.00	1.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
会館の機能を維持し、市民に安全に安心して利用してもらうための施設整備であり、効果を図るための事業ではないため成果指標は設定しない		
目的妥当性	公共関与の妥当性	公共施設であり、すべての市民が安全に安心して使用できるようにする必要がある。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	安全に安心して使用するために必要な改修である。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	改修内容について精査し、入札によって事業者を選定している。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	改修の効果は全市民が受益者となる。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	事業は計画どおりに進んでいる。
	次年度に向けて	昭和50年の開館から45年が経過し、施設全体の老朽化が進んでいることから、利用者の安全確保と設備の安心運用のために必要な改修を継続して行っていく。

令和2年度

事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	10	05	10	104620	萬鉄五郎記念美術館企画展示事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興		
	施策	01	芸術文化活動の推進				
目的	萬鉄五郎の画業を顕彰するとともに、優れた美術作品の鑑賞機会を提供する。						
対象	市民等						
意図	先人の理解を深めるとともに、芸術文化に関心や親しみを感じる市民を増加させる。						
事業概要	企画展覧会（収蔵作品展を含む） 6,195千円 ・萬鉄五郎展（令和2年6月～9月） 4月～5月は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため休館 ・五味太郎展（令和2年7月～9月） 令和4年度へ延期 ・宇津宮功展（令和2年10月～12月） 令和3年度延期 代替として ・いわて戦後美術の精華展を開催 ・収蔵品展（令和3年3月） 関連事業 96千円 ・ミュージアムコンサートの開催（年2回） ・美術をより理解し楽しむための美術講座の開催 ・美術館情報リーフレットの発行						
市民参画の有無	有						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	H31	R02	R03
1	実開館日数	日	計画	300.00	285.00		
			実績	264.00	239.00		
2	企画展覧会の数	回	計画	5.00	5.00		
			実績	5.00	4.00		
3	関連事業の数	回	計画	5.00	5.00		
			実績	6.00	2.00		
成果指標			単位	区分	H31	R02	R03
1	入館者数	人	目標	11,000.00	11,000.00		
			実績	16,120.00	3,262.00		
2	美術に関心を持つ人の割合	%	目標	75.00	75.00		
			実績	78.00	74.00		
3	関連事業への参加者数	人	目標	250.00	250.00		
			実績	711.00	104.00		
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
市民が施設を訪れ郷土の先人の功績について理解し、美術に親しみを持つことにより、郷土に愛着が生まれているか美術に親しみを持っているかその状況を示すものとして設定した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	県内では博物館法該当の美術館は4館しかなく、本格的な美術鑑賞の機会が限定的であることから、市民等に対し身近で安価に美術鑑賞の機会を提供できるものであり、公共関与は妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	他の美術館の展覧会の情報を収集し、話題性の高い展覧会を企画することにより集客力や鑑賞者の満足度が高まり、成果が向上する。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	県内には、当館と同規模の美術館はないが、県外同規模（面積）館の職員数は12名（正職員6、臨時補助員6）、事業費は1,500万～1,800万となっており、事業費、人件費とも削減の余地はなく効果的な事業となっている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	入館料は、「特別展示にかかる特別入館料の基準（平成22年3月市長決裁）」に基づき、重要度、人気度（集客度）、事業費の観点から企画展ごとに設定しており、公平性が確保され適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため4月から5月まで休館となり、当初予定していた展覧会も日程の変更や展覧会自体を延期せざるを得ない状況となった。 ・「萬鉄五郎の軌跡展」では、萬鉄五郎と相互に影響しあった同時代の画家の作品を紹介し、萬の画家としての軌跡をたどったが、新型コロナウイルスの影響により当初7月までの会期を9月まで延長した。 ・五味太郎展は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和4年度へ延期し、宇津宮功展も令和3年度へ延期した。 ・宇津宮展の代替えとして開催した「いわて戦後美術の精華展」は当美術館の膨大な収蔵品を利用し、岩手県出身またはゆかりの作家の作品を展示し、大変好評であった。 ・また、3月の収蔵品展は1年前新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため休館時に開催していた企画展を再度展示した。 ・美術に関心を持つ人の割合は、アンケート結果によるものである。
	次年度に向けて	今後とも・萬鉄五郎・親子向け・岩手の美術家・花巻の美術家を紹介する展示を行い、バランスの取れた展示を目指していく

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	10	104630	美術普及活動推進事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	01	芸術文化活動の推進			
目的	萬鉄五郎の画業を顕彰するとともに、実地に美術活動に取り組む機会を提供する。					
対象	市民等					
意図	郷土の先人の理解を促進・深化させるとともに美術活動に取り組む市民を増加させる。					
事業概要	<p>萬鉄五郎祭実行委員会負担金事業 《新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止》</p> <p>萬鉄五郎祭実行委員会主催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・萬鉄五郎祭顕彰式典の開催 5月3日 ・顕彰式典、中学生による「鉄人独語」の朗読、献花 ・児童等写生会及び作品展覧会 ・写生会 4月下旬（萬鉄五郎記念美術館周辺）美術愛好家及び美術館学芸員の指導により実施 ・作品展覧 4月下旬～5月中旬 ・民間団体が実施する事業に対する支援 ・美術研修会 ・監視ボランティアの養成・研修のための他美術館等を視察 ・萬生誕祭、鉄人忌の後援 					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	萬鉄五郎祭式典の実施	回	計画	1.00	1.00	
			実績	1.00	0.00	
2	児童等写生会・作品展覧会の実施	回	計画	1.00	1.00	
			実績	1.00	0.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	萬鉄五郎祭式典の参加者数	人	目標	60.00	60.00	
			実績	60.00		
2	児童等写生会の参加者数	人	目標	60.00	60.00	
			実績	67.00		
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
市民が郷土の先人について理解し、美術に親しみを持つことにより郷土に愛着が生まれているかその状況を示すものとして設定した。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実績値なし。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	郷土の先人を顕彰し、その功績について理解を深めることや、人づくりの一環として児童等が美術活動に対して親しむ機会を提供することは、市として妥当な事業である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	写生会について、幼稚園・保育園、小学校へのより積極的なPRにより製靴工場が期待できる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業の実施に必要な必要最小限の費用負担であり、また職員の関与も技術的な指導・支援にとどめ、いずれも削減の余地がない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	式典は萬顕彰の事業であり、受益者負担になじまない。また写生会については、画材、参加記念品相当の適正な参加料を徴収しており、公平性は確保されている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。
	次年度に向けて	郷土の先人である萬鉄五郎を顕彰する事業として、継続していくことが重要である。

令和2年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	10	104940	萬鉄五郎記念美術館等整備事業	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	01	芸術文化活動の推進			
目的	萬鉄五郎記念美術館及び収蔵施設の整備					
対象	萬鉄五郎記念美術館収蔵品					
意図	萬鉄五郎記念美術館収蔵美術品を適正な環境で保存する。					
事業概要	・萬鉄五郎記念美術館収蔵施設の整備 5,571千円 用途変更手数料、旧土沢小学校改修設計等業務委託					
市民参画の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	整備事業実施件数	件	計画		1.00	
			実績		1.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
施設を整備する事業であり、効果を図るための事業ではないため成果指標は設定しない。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	美術館の施設整備であり公共関与は妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	美術館が開館して35年以上経過しており、現状のままでは向上の余地はない。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	いくらかでも安価になるように事業費では検討を重ねているほか、人件費はすでに最低限の人数となっておりいずれも削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	適正な環境で美術品を収蔵、または美術館を整備することで入館者の安全と満足度が図られるため、受益と負担の適正化余地は適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	美術館の所有する美術品を適正な環境で保存すべく、旧土沢小新校舎を美術館の収蔵庫及び倉庫に改修する設計及び用途変更を行った。
	次年度に向けて	設計及び用途変更が終了したため、設計を元に改修を実施。